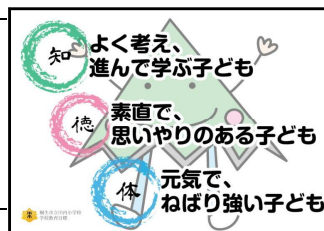




川内小学校だより

ゆずり葉

第10号 令和6年12月13日



有意義な冬休みを！

12月も終盤を迎え、2学期のまとめの時期となりました。行事の多い2学期でしたが、子どもたち一人一人が様々な体験を積み重ね、成長できたことと思います。また、先日は学校評価へのご協力をいただきありがとうございました。現在、結果を基に今後の改善策等を分析中です。詳細は年が明けて準備が整い次第お伝えしますが、現在、「自主勉強」、「お手伝い」、「ゲームの時間」、「運動・外遊び」、「将来への夢や希望」の5項目で課題が見られています。

まもなく冬休みを迎えますが、安全に心がけ、規則正しい生活ができるよう、ご家庭でも引き続き声かけをよろしくお願いいたします。

今回は、年末年始の冬休みだからこそできる子どもたちへの教育についてご紹介します。

1 1年を振り返り新年の目標を立てる

○ 通知表を活用して振り返る！

12/24に子どもたちは通知表を持ち帰ります。通知表を子どもたちを叱る道具にせず、ぜひ、子どもたちの努力を振り返り、認め励ます道具としてお使いください。「がんばったね。」よいところを見つけた上での保護者の一言が次へのやる気や自主勉強への意欲を育てます。その子の将来の職業選択につながるかもしれません。また、通知表には次へ向けての課題も潜んでいます。通知表をもとに振り返り、次は何を頑張ればいいのか目標をもたせられるといいですね！

○ キャリアパスポートを活用して新年の目標を立てる！

「キャリアパスポート」も2学期末に配付されます。

「キャリア・パスポート」とは、子どもたちが「自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたファイル」です。今回は、2学期最初に立てた目標に対してのお子さんの振り返りと、来学期への自分へのメッセージが記入されています。

キャリアパスポートに記載されたお子さんの2学期の振り返りをぜひご覧ください。そして、お子さんがキャリアパスポートに記入したことについて、下の欄に励ましのメッセージをお願いいたします。



2 家族の一員としての役割を与える



冬休みは、家族の一員としての役割を与える絶好のチャンスです。ミニお楽しみ会の計画・準備、年末の大掃除、お正月を迎えるための計画・準備等、子どもたちも一緒にできることがたくさんあります。

「ありがとう。」「助かるよ。」子どもたちが親から言われてうれしい言葉です。「ありがとう。」「助かるよ。」は似た言葉ですが、お手伝いをしたときに「偉いね。」と言われるより、「助かるよ。」と言われた方が子どもたちはうれしいそうです。「大好きなおうちの人の役に立っている」と実感できるからです。こうした言葉かけによって、子どもたちの達成感や自己肯定感も高まっていきます。

3 金銭について考えさせる

冬休みは、子どもたちに金銭について考えさせるチャンスです。お正月には、お年玉をもらえるからです。今までずっと欲しかったものを買ってもよし、貯金してもよし。ただ、必要のないものを買ったり、無計画に遣ったりしていつの間にかお金がなくなってしまうことは避けたいものです。保護者の皆様が働き、かつ親戚等とお付き合いをしているからこそもらえるお年玉です。勤労によって得られるお金の尊さ、お金で必要なものを買うことによって得られる幸せ、貯金することによって得られる今後への安心感等、お金について、考えさせるよい機会だと思います。

※裏面に続く



4 会った方に対するあいさつ等

○ 自ら、あいさつ・返事・ありがとう



この年末年始は、親戚の人等と顔を合わせる機会が増えることと思います。そんな時は礼儀を教える絶好のチャンスです。また、お子さんが礼儀ができているかどうかを確認する絶好のチャンスでもあります。

○あいさつ(こんにちは。おじゃまします。いただきます。ごちそうさま。

おめでとうございます。おじゃましました。おやすみなさい…。等)

○返事(短く、明るく、はい。)

○ありがとう(していただいたことへの感謝)

このようなことが当たり前にできるといいですね。

5 その他できること

この冬休みは、学校の勉強以外のことも体験し・獲得するチャンスです。以下のことは、お子さんはできますか？

○ぞうきんを絞る、 ○リボン結び、 ○爪切り、

○金づちやドライバーを使う、○掃除機や洗濯機を使う、

○トイレトーパーをセットする、

○コンロを使ってお湯を沸かす、

○ミルクティーや砂糖等、適量を入れ、スプーンで適温になるまでかき混ぜる

○ナイフや包丁で果物等の皮をむく、

○簡単なおかずを加熱して調理する

上記のことは、ご家庭の状況や子どもたちの年齢によっても異なりますが、お家の人が見ているところで安全に行えるといいですね。



○ 子どもを幸せにする5つの言葉



以前読んだ本「天才を育てた親はどんな言葉をかけていたのか？」

サンマーク出版1400円の中で、大変心に残った言葉があったので紹介します。

子どもを幸せにする5つの言葉、それは、「がんばってるね」「大変だね」「ありがとう」「たすかるよ」「大好きだよ」だそうです。

この本の中では、エジソン、アインシュタイン、本田宗一郎、ゲーテ、ベンジャミン・フランクリン、黒澤明、森毅、渋沢栄一、ユング、チャーチル、ダーウィン…等、歴史に名を刻んだそうそうたるメンバーの話がでています。

でも、歴史に名を刻んだ彼らは、子どもの頃、必ずしも育てやすい子ではなかったそうです。はじめから天才でもありませんでした。むしろ「問題児」とされていた子も多くいました。そんな彼らの親は子どもにどんな言葉をかけ、どんな接し方をしていたのでしょうか・・・。

子どもを想うすべての保護者の皆様に贈る、実用的子育て偉人伝としてお薦めの本です。

【目次より】

1章 学校になじめなかった天才たち

2章 他人と同じようにできなかった天才たち

3章 親の言葉で才能を伸ばした天才たち

4章 親の言葉で好奇心を育んだ天才たち

5章 親に好きなことを後押しされた天才たち

6章 結果を急がずじっくり取り組んだ天才たち

7章 親の言葉で自信を培った天才たち

8章 天才の思いやりを育てた親の背中

9章 親の言葉で感情をコントロールした天才たち

10章 親に背中を押されて挑戦できた天才たち

11章 進路に悩んだ天才たち

12章 難題にぶつかった天才たち

13章 社会の真理を親から学んだ天才たち

14章 親に自立へと導かれた天才たち

6 後書き

学校評価で「ゲームをする時間」が多いという結果が出ました。昔はお正月と言えば、凧揚げ、コマ回し、羽子板等、たくさんの魅力ある「外遊び」がありました。冬休みがゲーム三昧ではなく、子どもたちにとって、ゲームを上回る有意義な経験ができることを願っています。